

■平成29年度第5回（第273回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成29年8月23日（水） 午前10時05分～午前10時45分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、遠藤副市長、日野副市長、教育長、技監、都市戦略本部長、総務局長、
財政局長、総合政策監、スポーツ文化局長、経済局長、副教育長、
商工観光部長、学校教育部長、生涯学習部長

【議 題】 次回の国際芸術祭について

< 提 案 説 明 >

次回の国際芸術祭について、スポーツ文化局から次のような説明があった。

- ・ 本件は、前回審議の際に指摘された事項について審議いただくもので、審議事項としては、基本構想改訂版（案）における「有識者会議（仮称）の設置について」、開催概要（案）における「地域の活性化について」、「教育委員会との連携について」、「ディレクターの公募について」となっている。
- ・ はじめに、基本構想改訂版の案における修正点についてだが、「さいたまトリエンナーレ2016においては、総合的な行政とアーティストの間のまとめ役がいなかった」との指摘事項を踏まえ、実行委員会委員の一部で構成していた運営会議を廃止し、基本構想及び開催計画等に関する議論やディレクターと事務局との調整を図る有識者会議（仮称）を設置し、アーティストだけでなく行政の意見が反映される仕組みを構築することとし、改訂案に修正を加えたいと考えている。
- ・ なお、有識者会議（仮称）は、事業の実施段階においては、ディレクターと事務局との連絡調整を図る場とすることを想定している。
- ・ また、有識者会議（仮称）における議長については、前回提案した芸術祭全体の監修やディレクターのバックアップを行うこととしていた「エグゼクティブ・アドバイザー」としての役割に加え、ディレクターと事務局との間の調整や意見の取りまとめを担うこととし、芸術祭を総合的にコントロールすることができるようにしたいと考えている。
- ・ 有識者会議の構成員は、実行委員会を構成する有識者を議長とし、事務局長、ディレクター、文化芸術に関する有識者などを構成員として想定している。
- ・ 開催概要だが、名称・会期・会場・事業規模については資料のとおり。
- ・ 指摘事項のうち地域の活性化に関するものだが、まず「盆栽、人形、鉄道、漫画などを活用して展開していくこと」については、基本構想にも記載されている事項であることから、例えば、国際芸術祭において現代アートと盆栽のコラボレーションによる作品の展示など、本市の文化資源の活用を図る取組を開催計画に記述し実施

することとしたい。

- ・ 次に、「アートを通じた産業振興（食のイベント）の取組」については、経済局において実施している食のイベントとの連携などを開催計画において記述し実施することとしたい。
- ・ また、「エリアに商店街を入れるとともに、飲食等に結び付く取組など、まちの活性化に資する仕掛けを構築すべき」との指摘については、商店街に作品を設置することにより人を呼び込むことやチケット提示により飲食店等の割引を適用するなどの取組について、開催計画に記述し実施したいと考えている。
- ・ 「学校や子どもが参加しやすい仕組みとするべき」との指摘については、教育委員会と開催計画の策定段階から連携を図り、美術部員などによるアート作品制作への参加をはじめ、小・中・特別支援学校アート展や合同演奏会などの企画を実施することとしたい。
- ・ 「ディレクターを公募する際に市の考え方を明確に示しておくこと」については、市側の考えを示した公募要領を作成したうえでディレクターを公募することとし、ディレクターの決定に当たっては、有識者会議（仮称）において推薦する候補者を決め、最終的に実行委員会で決定することとしたい。
- ・ なお、ディレクターの公募に際しては、①市内に居住又は所縁を持つアーティストを積極的に活用すること、②地域の活性化に配慮したプロジェクトを企画すること、③学校や子どもが参加しやすい企画を組み込むこと、以上の3点を公募要領作成の際に盛り込むべき視点としてあらかじめ示したうえで臨みたいと考えている。

< 意見等 >

- ・ 有識者会議（仮称）だが、この会議の役割や議長の権限からすると名称が馴染まないと感じるので、名称については検討したほうがよいのではないかと。
- ・ 総事業費については、内容を精査した上で予算要求を行うこと。
- ・ ディレクターの公募について、国際芸術祭は、ディレクターの力量や分野、ネットワーク等で、芸術祭の作品や雰囲気そのものが決まってしまうところがあると感じている。ディレクターになる人には、ある程度目玉となるアーティストや作品を用意するような発想や配慮をするよう、はっきりと伝える必要がある。併せて、しっかりと最後まで履行してもらうような契約も行う必要がある。
- そのようなことも公募内容に記載していくが、一方で、ディレクターにある程度任せるといふ部分も必要だと考えている。今回設置を考えている有識者会議（仮称）は、ディレクターと事務局との調整を図る機能を有しているため、この会議により市側の意見を反映させていくことができると考えている。
- ・ 現在、全国で多くの芸術祭が行われているので、一定の自由度や裁量権がディレクターに保証されない場合、さいたま市を選んでももらえないということが危惧される。その点は留意する必要がある。また、現在のさいたま市は、拠点となる美術館等を持たず、現代アートを受け止めるだけの素地が不足していると感じている。次回の国際芸術祭までの間に、現代アートの意義を理解してもらえよう取組をしっかりと行っていく必要がある。

- ・ 開催に向けて、子どもたちの情操教育やアート感覚を育成するようなことを教育活動の中で行うことも必要である。また、資料の教育委員会との連携の中に高校の記載がないが、将来デザイナーになりたいとかアーティストになりたいという、そういう分野の進路の選択をする高校生もいるので、高校と連携した取組も行うべきである。
 - ・ 国際芸術祭は、スポーツ文化局だけで取り組むのではなく全庁挙げて取り組む必要があると考えている。特に、教育委員会や経済局との連携は必要。教育委員会としても一丸となって協力を行うということによろしいか。
- 了解した。
- ・ また、経済局の方では、商業振興等の各事業を行う中で様々なネットワークがあると思うので、それらを活用しながら連携していくということによろしいか。
- 盆栽という視点を現代アートとどう融合していくかということも検討しながら連携していきたいと思う。
- ・ 前回の開催では、連携イベントなどのいくつかのイベントが連動して行えたことは良かった点であったと考える。そこは是非残してほしい。
 - ・ 国際芸術祭の開催は、現代アートに関心を持ってもらうきっかけをどれだけ作れるかだと考えており、現代アートに関心のある人達しか見に来ないというものにはしてほしくない。
 - ・ 高校については、市立高校はもとより、できるだけ多くの県立高校や私立高校とも連携していくべき。
 - ・ 芸術祭に係る情報発信には、PRのコアとなる目玉作品が重要である。良い物を早期に提供してもらうことが大切である。影響が大きいので確実にやってもらいたい。
 - ・ 現代アートは、まだまだ自分も含めて理解が難しい。作品については、市民に親しみやすくという観点も必要なのではないか。

< 結 果 >

- ・ スポーツ文化局発議の次回の国際芸術祭については、原案のとおり了承とする。ただし、以下の点に留意すること。
 1. 次回の国際芸術祭の開催に向けては、経済局や教育委員会をはじめ全庁体制で様々な取組を行うことなど、都市経営戦略会議での意見を踏まえて準備を進めること。

< 会 議 資 料 >

(資料) 次回の国際芸術祭について